

秋田県立衛生看護学院

Akita Prefectural Hygiene and Nursing Academy



学院案内

INFORMATION

教育理念

看護の対象である人間は分割することのできない全体としての存在であり、人間を取り巻くすべての環境と連続的・相互的にかかわり、変化するかけがえのない個人として尊重されなければならない。

看護とは、人間が人として十分に機能するための力である健康を支援することである。21世紀を迎え、社会の変化や発展に対応できる看護専門職者が求められている。

本学院は、人間を理解し尊重し、看護が実践できる基礎的能力を養い、生涯にわたり主体的に学び続ける看護専門職者として、県民のニーズに応え社会に貢献できる人材を育成する。

各科の定員と修業年限

	修業年限	入学定員
保健科	1年	15人
助産科	1年	10人
看護科	3年	40人



学院の沿革

昭和33年4月 1日	県立高等看護学院開設
33年4月15日	県立高等看護学院開校式(開校記念日)
36年4月	県立保健婦学院開設
38年9月	県立高等看護学院に2年課程を併設、従来の課程を3年課程と称する
41年4月	看護学院と保健婦学院を統合し、秋田県立衛生看護学院と改称、保健科、看護科に改める
45年4月	看護科に2年課程第2部を増設
47年4月	看護科3年課程が秋田大学医学部附属看護学校として、国立に移管
55年4月	助産科開設
56年4月	看護科3年課程を再開
58年3月	看護科2年課程第2部を廃止
12月 8日	専修学校として認可
平成20年3月	看護科2年課程を廃止
20年4月	横手市へ新築移転 創立50周年を迎える

保健科

教育目的

保健師になるための必要な専門の知識及び技術を習得させ、併せて豊かな人間性を養い、公衆衛生の向上に寄与でき、社会に貢献しうる有能な人材を育成する。

教育目標

- 個人・家族・集団・組織を含むコミュニティ（共同体）を地域とし、地域及び地域の人々の心身の健康並びに疾病・障害の予防、発生、回復及び改善の過程を社会的条件の中で系統的かつ予測的に捉えてアセスメントし、地域の顕在化・潜在化した健康問題を明確にし、解決・改善策を計画・立案する能力を養う。
- 地域の健康水準を高めるために、保健・医療・福祉サービスを調整し活用する能力及び地域の健康課題解決に必要な社会資源を開発し施策化及びシステム化する能力を養う。
- 地域の人々が、自らの健康状態を認識し、健康の保持増進を図ることができるように支援するとともに、自主的に社会資源を活用できるように支援し評価する能力を養う。
- 健康危機管理体制を整え、健康危機の発生時から回復期の健康課題を早期に発見し迅速かつ組織的に対応する能力を養う。
- 保健・医療・福祉及び社会に関する最新知識・技術を主体的かつ継続的に学び、実践の質を向上させる能力を養う。

卒業後の資格



卒業後の進路

保健所・市町村・事業所・病院等

授業科目と単位数

科目	授業科目	単位
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論Ⅰ	1
	公衆衛生看護学概論Ⅱ	1
	公衆衛生看護管理論	1
	健康危機管理活動	1
	地区活動論Ⅰ	1
	地区活動論Ⅱ	3
	社会調査技法	1
	地域ケアシステム	1
	地域組織化活動	1
	健康教育論Ⅰ	1
	健康教育論Ⅱ	1
	家族支援論Ⅰ	1
	家族支援論Ⅱ	1
	家族心理学	1
	カウンセリング技術	1
	母子保健活動	1
	成人保健活動	1
産業保健活動	1	
高齢者保健活動	1	
感染症保健活動	1	
障害児・者保健活動	1	
地域精神保健活動	1	
難病保健活動	1	
疫学	疫学Ⅰ	2
	疫学Ⅱ	2
保健統計学	保健統計学	2
保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政論Ⅰ	1
	保健医療福祉行政論Ⅱ	1
公衆衛生看護学実習	健康政策論	1
	個人・家族・集団・組織の支援実習	3
	公衆衛生看護活動展開論実習 公衆衛生看護管理論実習	3
合計		40



助産科

教育目的

助産師になるために必要な専門の知識及び技術を習得させ、併せて豊かな人間性を養い、社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

教育目標

- 1 助産の対象を全人的に理解し、それに対応して助産師の実践活動ができる能力を養う。
- 2 変動する社会の要請、科学技術の進歩に対応可能な基礎的能力を養う。
- 3 助産師としての社会的・職業的責務を果たす能力を養う。
- 4 助産実践の向上を図る研究的態度を養う。

卒業後の資格

1
助産師国家試験
受験資格

2
受胎調節実地指導員の
資格

授業科目と単位数

科目	授業科目	単位
基礎助産学	助産学概論	1
	生殖の形態・機能	1
	家族計画論	1
	母子の心理・社会学	1
	母子の栄養	1
	乳幼児の成長・発達	1
助産診断・技術学	妊娠期の診断・技術学	1
	分娩期の診断・技術学	1
	分娩介助の技法	1
	産褥期および新生児期の診断・技術学	1
	周産期の異常	1
	周産期に関わる検査・診断法	1
	健康教育の技法	3
	ライフサイクル各期の診断・技術学	1
地域母子保健	地域母子保健	1
助産管理	助産管理	2
研究	研究	2
助産学実習	助産診断・技術学実習Ⅰ	2
	助産診断・技術学実習Ⅱ	5
	助産診断・技術学実習Ⅲ	4
	保健所・市町村実習	1
	開業助産師活動実習	1
合計		34

卒業後の進路

病院及び診療所等



看護科

教育目的

看護師になるために必要な専門の知識及び技術を習得させ、併せて豊かな人間性を養い、社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

教育目標

- 1 対象を全人的に理解する能力を養う。
- 2 対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。
- 3 保健・医療・福祉におけるチームメンバーとしての役割を果たす能力を養う。
- 4 人間尊重を基盤とした多様な価値観を認識し、柔軟な姿勢で対応できる能力を養う。
- 5 看護の向上を目指し、研究的態度を養う。
- 6 自然・社会文化的環境と健康との相互作用をダイナミックに捉えられる能力を養う。

卒業後の資格

1
看護師国家試験
受験資格

2
保健師・助産師学校
受験資格

卒業後の進路

病院及び診療所、介護老人保健施設・老人福祉施設等



授業科目と単位数

科目	授業科目	単位	
基礎分野	哲学	1	
	教育学	1	
	科学的思考の基盤	情報科学基礎論	1
		情報科学方法論	1
		統計学	1
		心理学	1
		文学	1
	人間と生活・社会の理解	音楽	1
		社会学	1
		文化人類学	1
		人間関係論	1
		異文化コミュニケーション	1
		英会話	1
小計		13科目	13
専門基礎分野	生物学	1	
	人体の構造と機能	人体の構造	2
		人体の機能	2
		臨床栄養学	1
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染免疫学	1
		病理学	1
		臨床病態学Ⅰ	2
		臨床病態学Ⅱ	2
		臨床病態学Ⅲ	1
		臨床薬理学	1
		臨床心理学	1
	健康支援と社会保障制度	健康科学論	1
		健康援助論	1
		公衆衛生学	1
		社会福祉・社会保障	1
		関係法規	1
	小計	17科目	21
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論	1
		家族援助論	1
		共通看護技術Ⅰ	1
		共通看護技術Ⅱ	1
		共通看護技術Ⅲ	1
		共通看護技術Ⅳ	1
		生活援助技術	2
		診療援助技術	1
	臨床看護技術	1	
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1
		基礎看護学実習Ⅱ	2
小計		11科目	13
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1
		成人看護学援助論Ⅰ	1
		成人看護学援助論Ⅱ	1
		成人看護学援助論Ⅲ	1
		成人看護学援助論Ⅳ	1
	老年看護学	成人看護学援助論Ⅴ	1
		老年看護学概論	1
		老年看護学援助論	2
	小児看護学	老年看護技術	1
		小児看護学概論	1
		小児看護学援助論	2
	母性看護学	小児看護技術	1
		母性看護学概論	1
		母性看護学援助論	2
		母性看護技術	1
		精神看護学概論	1
	精神看護学	精神看護学援助論	2
		精神看護技術	1
		成人看護学実習Ⅰ	2
臨地実習	成人看護学実習Ⅱ	2	
	成人看護学実習Ⅲ	2	
	老年看護学実習Ⅰ	1	
	老年看護学実習Ⅱ	2	
	老年看護学実習Ⅲ	1	
	小児看護学実習	2	
	母性看護学実習	2	
	精神看護学実習	2	
	小計	27科目	38
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1
		在宅看護援助論	2
		在宅看護技術	1
	看護の統合と実践	医療安全	1
		看護実践マネジメント	1
		災害・国際看護論	1
		実践看護技術	1
	臨地実習	在宅看護論実習	2
		看護の統合と実践	2
小計	9科目	12	
合計		97	

学院の行事



先輩達からのメッセージ

助産科37期生 (29年3月卒業) **佐々木美紀**

この1年は学びと感動の充実した日々でした。実習では赤ちゃんを取り上げ、お母さん方と関わり多くのことを学びました。また、大変なこともあります。それ以上に、実習で出会った方、先生方、助産科の仲間と多くの方々に恵まれ最高の1年を過ごせました。助産科で過ごす濃密な時間は一生のかけがえのない時間になると思います。



保健科56期生 (29年3月卒業) **高橋華奈**

保健科では家庭訪問や健康教育、組織支援などを実際に住民の皆さんに行うことができ、より実践的な保健活動のスキルを学ぶことが出来ます。地域を自分の目で見て、自分の足で歩き、実際に住民の方々と話し、地域の健康課題を見出すといった地域に深く入り込んだ実習ができました。住民の皆さんの“健康で幸せな暮らし”のために一生懸命15人の仲間と努力した日々は私の宝物です。



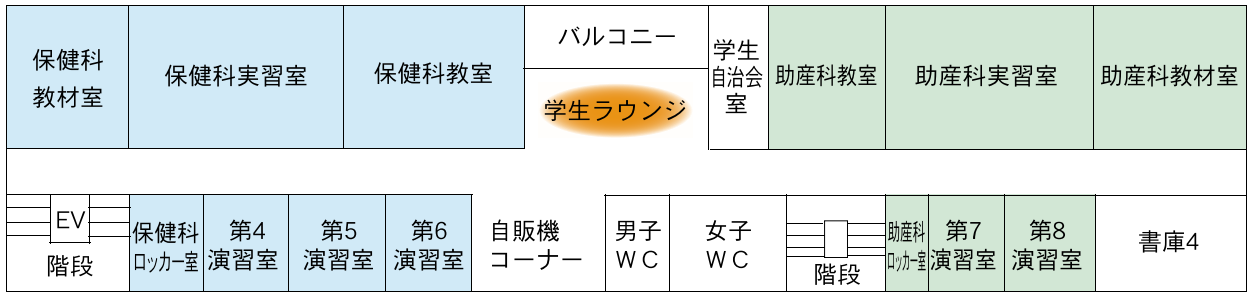
看護科34期生 (29年3月卒業) **熊谷衿香**

3年間この学院で学び、看護に必要な知識・技術はもちろんのこと、看護師としてふさわしい立ち居振る舞いや在り方を学ぶことができました。就職した今、身に付いた看護実践能力を実感しています。国家試験や就職・進学についても熱心にアドバイスして下さる先生方ばかりなので目標とする看護師の実現ができると思います。



建物配置図

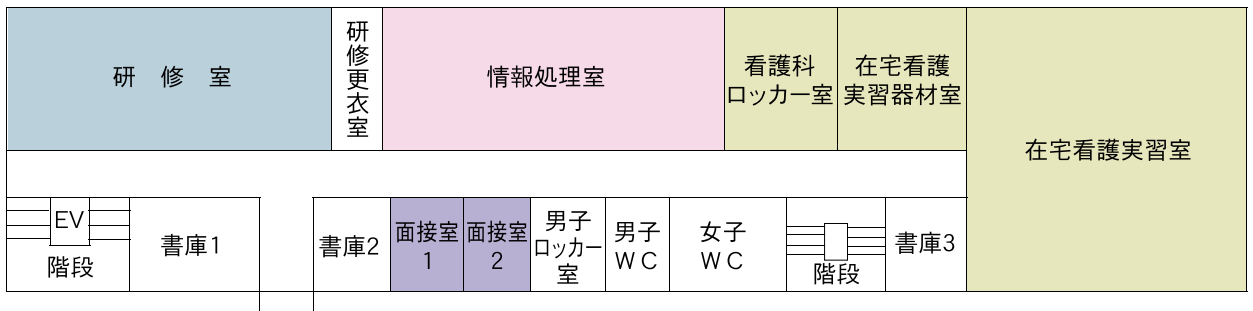
4階



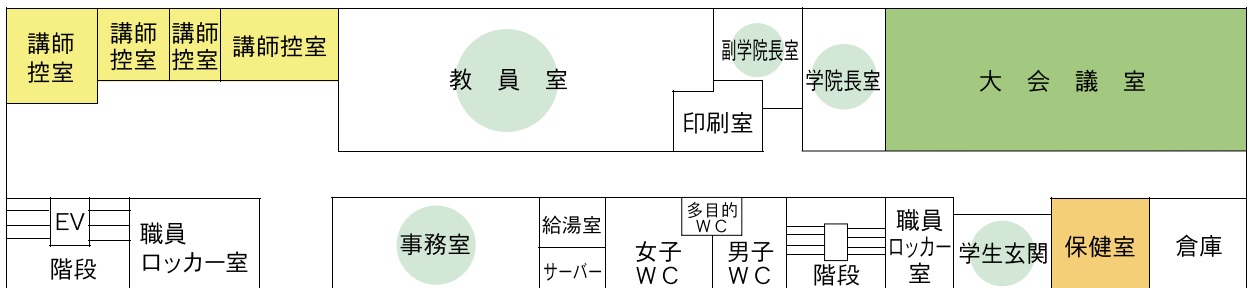
3階



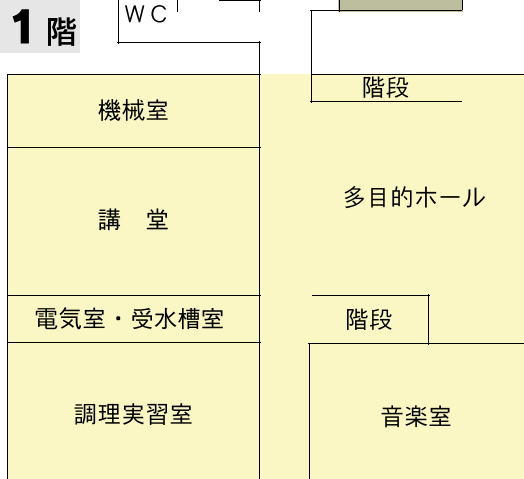
2階



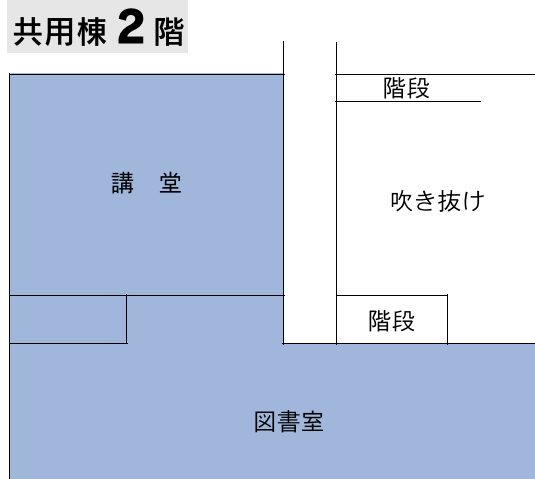
1階



共用棟 1階



共用棟 2階



受験に関する事項

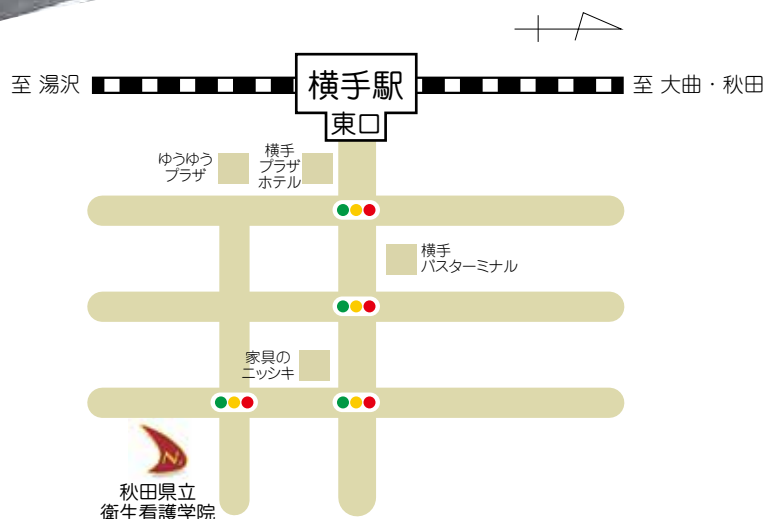
1. 募集要項の請求

返信用封筒(角形2号封筒[※A4サイズの書類が入る大きさ]に250円分の切手を貼り、住所、氏名及び郵便番号を明記したものを)を同封した封筒に「学生募集要項請求」と朱書きし、下記あてに請求してください。

本学院案内をあわせて請求する場合は「学生募集要項・学院案内請求」と朱書きしてください。

2. 募集要項及び学院概要

募集要項及び学院の概要については、秋田県立衛生看護学院のホームページでもご覧になれます。



秋田県立衛生看護学院

〒013-0037 秋田県横手市前郷二番町 10-2
TEL 0182-23-5011 FAX 0182-35-5188
ホームページ <http://www.pref.akita.lg.jp/kangaku/>